

[脱炭素経営フォーラム (2022年度)]

〈サプライチェーン全体の脱炭素化に向けての企業間連携〉

ステークホルダーエンゲージメントを軸としたスコープ³削減

2023.3.6

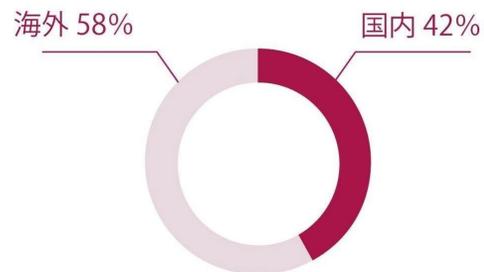
高砂香料工業(株)
コーポレート本部 谷口哲一

目次 Table of Contents

1	はじめに Introduction	2	背景 Background	3	検討内容 Our Actions	4	まとめ Summary
	<ul style="list-style-type: none">• 会社概要• 事業概要		<ul style="list-style-type: none">• GHG排出量削減目標• GHG排出量の推移		<ul style="list-style-type: none">• 削減施策の概要• 削減施策の評価• サプライヤーエンゲージメント施策• 削減を推進する基盤整備施策		<ul style="list-style-type: none">• 最後に

会社概要

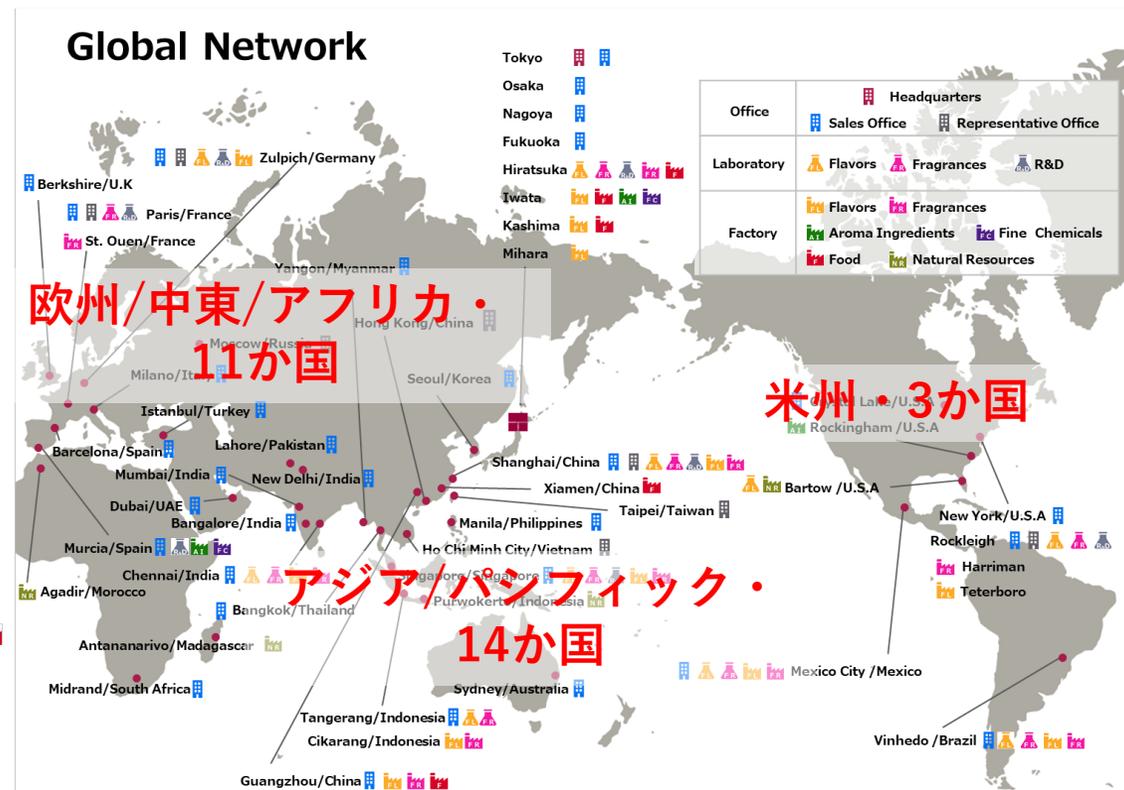
会社名	高砂香料工業株式会社
設立	1920（大正9）年2月9日
海外事業所	28の国と地域
研究所	13
工場	25



グループ売上：1,624億円
(2022年3月期)



総従業員数：3,756人
(国内従業員は4割程度)



事業概要

原料調達

製造

販売

主には4事業分野からなり、B to B業態のビジネスとなる。

(更に上流)

(植物由来)

(石化由来)

天然原料/
天然香料
素材

発酵(バイオ)
素材

合成原料/
合成香料素材

化学原料

フレーバー
Flavor



(主に)飲料・菓子等加工食品用
香料の製造・販売

フレグランス
Fragrance



(主に)香水や化粧品、消費財用
香料の製造・販売

アロマ
イングリエディエツツ
Aroma Ingredients



合成香料素材及び発酵(バイオ)素材
の製造及び販売

ファインケミカル
Fine chemical



GMP医薬品中間体や触媒・配位子
を製造・販売

(主に)
食品/飲料
メーカー様

(主に)
消費財
メーカー様

(主に)
医薬品
メーカー様

事業概要



- 化粧水
- 乳液
- コロン
- ハンドクリーム
- 口紅



- 衣料用洗剤
- 柔軟剤



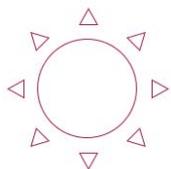
- アイスクリーム
- ポテトチップス
- チョコレート



- ドレッシング



- たれ
- つゆ



6:00

- 洗顔せっけん
- 歯みがき粉
- マウスウォッシュ



12:00

- ラーメン
- 菓子パン
- ヨーグルト



15:00

- コーヒー
- 栄養ドリンク
- スポーツドリンク



19:00

- シャンプー
- コンディショナー
- 入浴剤



23:00



高砂香料グループ GHG排出量 削減目標

- 2030年度までに2019年度比でグループ全体のScope1とScope2の合計を27.5%削減する。
- 上記同期間で、グループ全体のScope3を13.5%削減する。

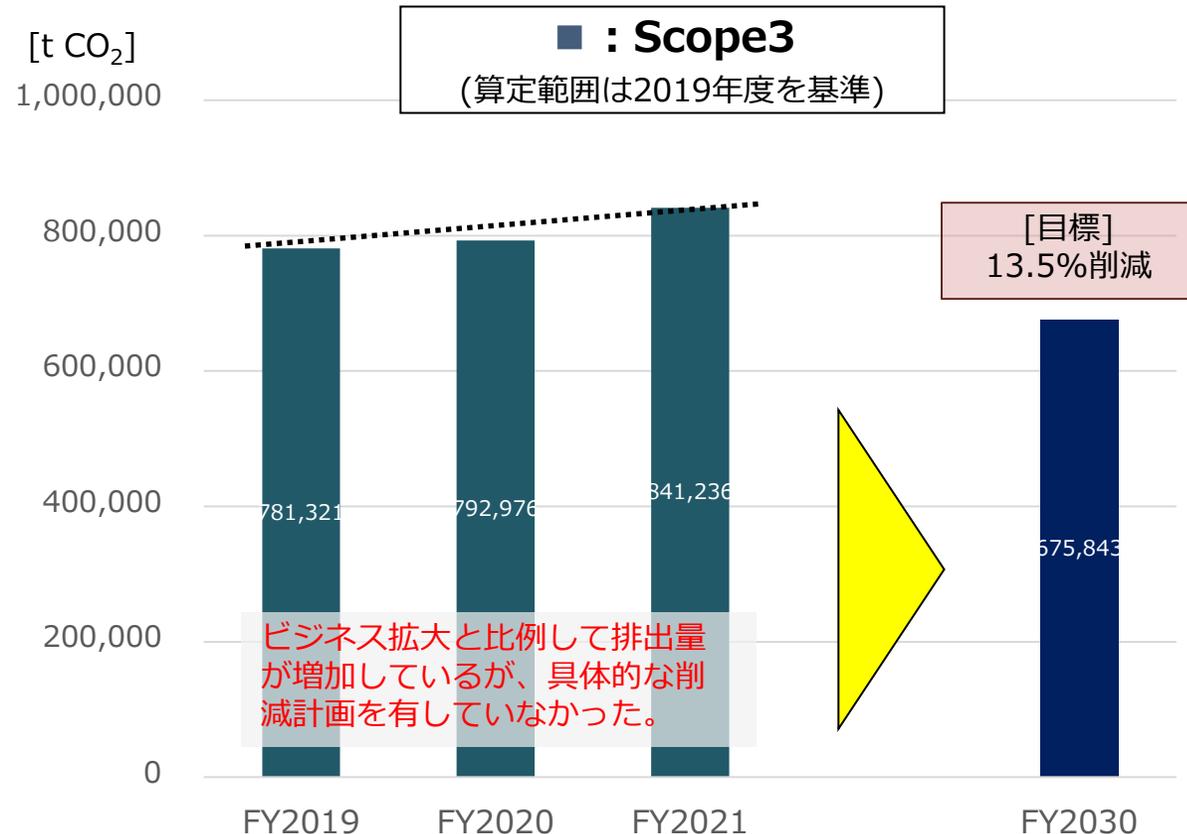
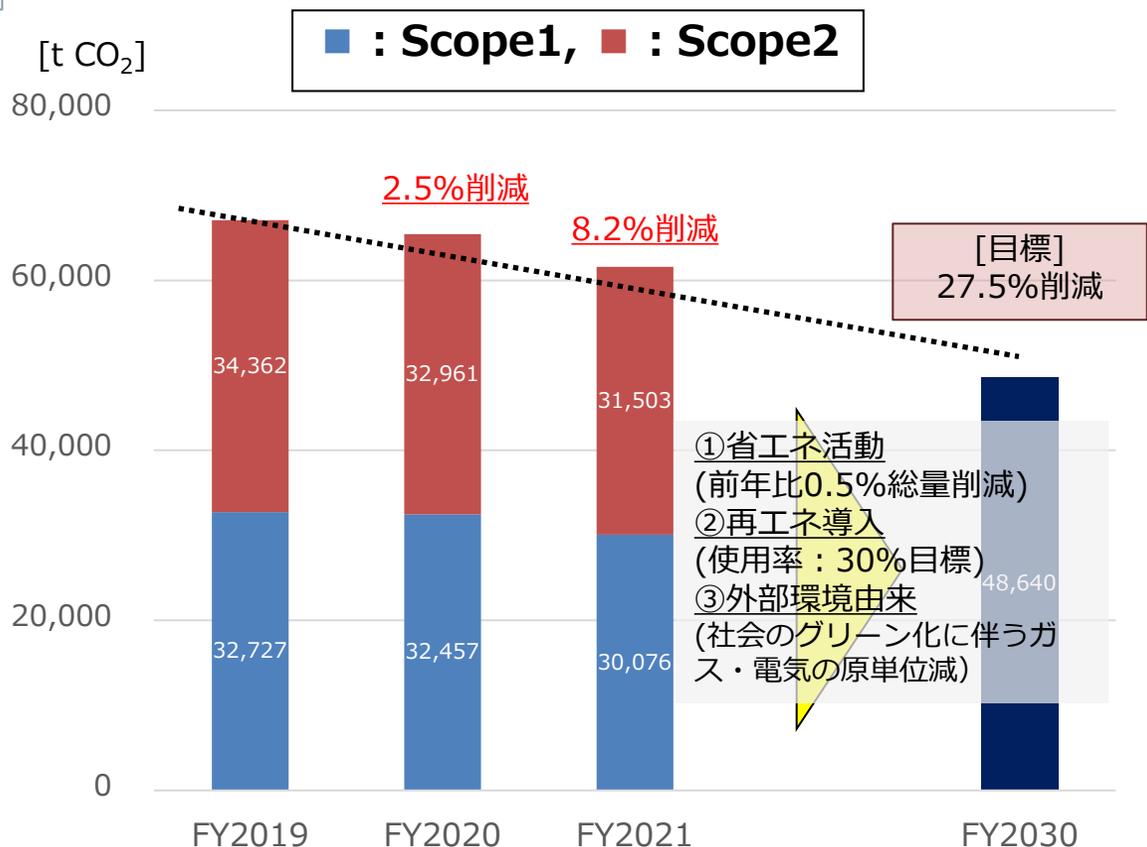


当目標は2021年5月にSBTイニシアチブより“SBT※”として認証されました。

※Science Based Targets : パリ協定の目標基準に科学的に整合した削減目標

[tCO ₂]	2019年(基準)	2030年(目標)	削減率
Scope1+2	67,089	48,639	27.5%
Scope1	32,727		
Scope2	34,362		
Scope3	781,321	675,842	13.5%

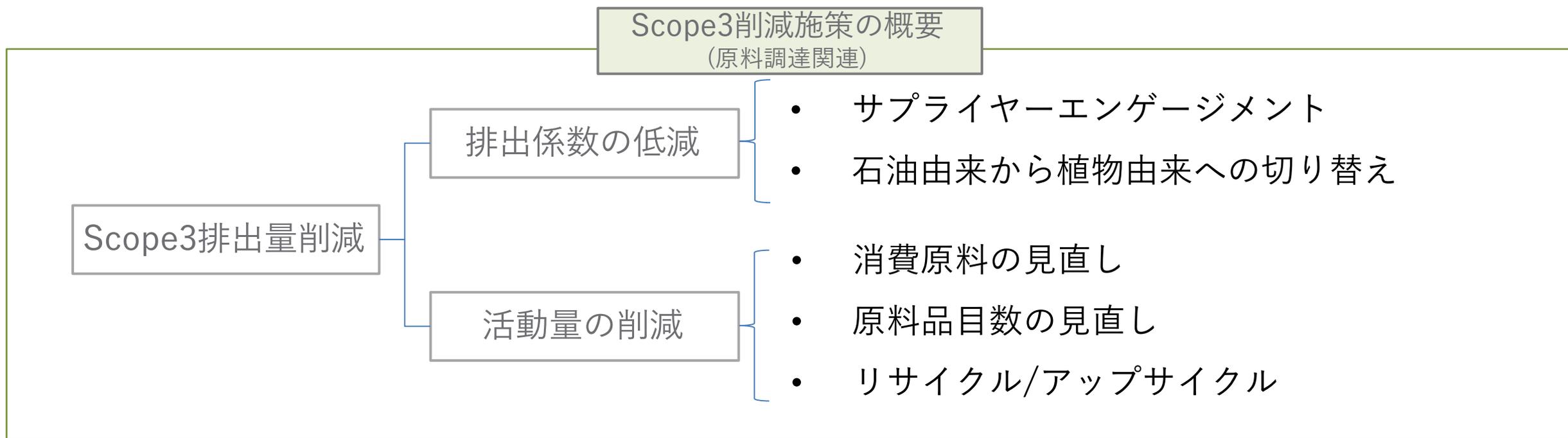
高砂香料グループのGHG排出量の推移



当該支援事業では、Scope3 排出量の削減計画立案を目標とした。
 原料調達活動由来の排出量削減を軸と考え、調達部門とコーポレート企画部門で施策を検討。

3 Scope3 [原料調達] 削減施策の概要

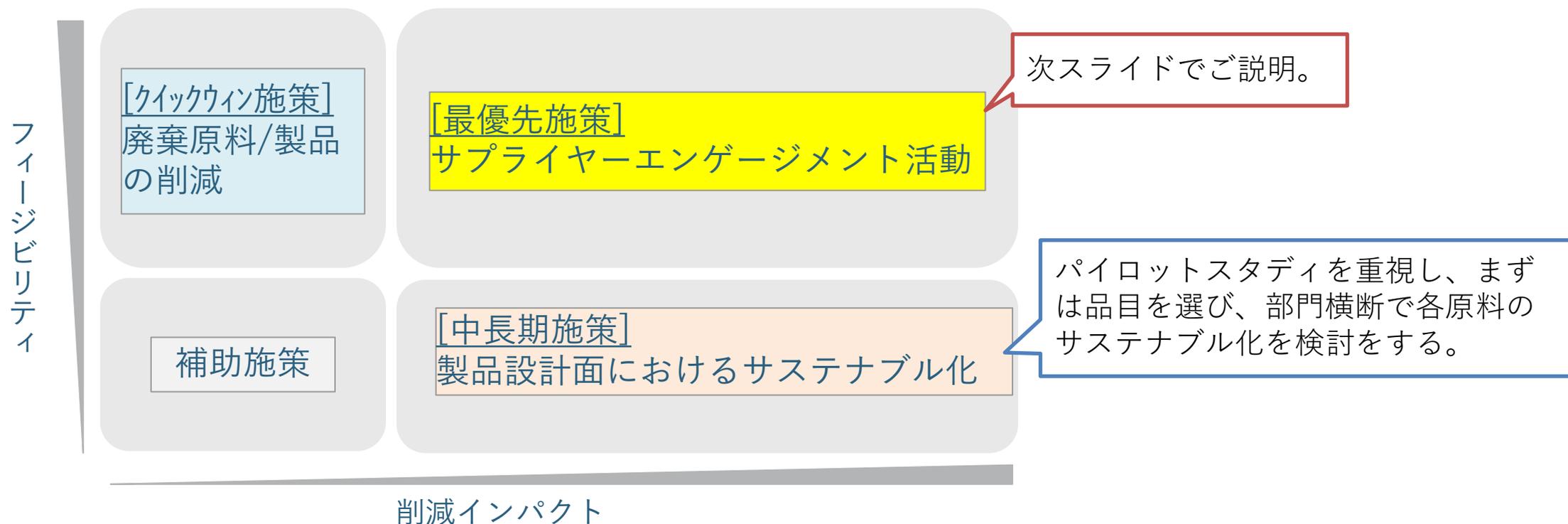
現状の排出量を分析し、排出源を特定。分類した原料カテゴリを元に削減施策を検討。



削減施策の有望度を認識するため、削減インパクト・フィージビリティ評価を行い、優先順位付けを実施

3 Scope3 [原料調達]削減施策の評価

削減インパクト・フィージビリティの2軸評価でマッピングを実施。



優先順位付けを経て、施策ごとの実行計画・ロードマップを策定。今後、2030年に向けて検討を推進。

3 サプライヤーエンゲージメント施策

最優先施策として、サプライヤーエンゲージメント施策を最優先と認識。

GHG排出量に関するサプライヤーエンゲージメントの進め方

①エンゲージメント・対話

- グリーン調達への推進
- イニシアチブ参加
- 原料CFPの精緻化

②削減目標の設定

- 排出削減目標の設定依頼
- 当社責任ある調達ポリシーに基づいたSAQ回答依頼

③削減活動の推進

- サプライヤーごとのGHG排出量のモニタリング
- サプライヤーのGHG排出削減推進に向けた対話

一連の活動は、PDCAサイクルで継続的な改善を行うことを想定

3 削減を推進する基盤整備施策

削減施策を強く推進するための環境整備として『脱炭素へ向けた基盤整備施策』も推進。

調達部門の組織整備 施策

事務局

管理

- 基盤となる施策の推進
- 進捗等の確認

タスクフォース(案)

原料
カテゴリA

原料
カテゴリB

原料
カテゴリC

原料
カテゴリD

原料
カテゴリE

- 原料カテゴリごとに集団化し、グローバル拠点の調達担当者も参加
- 削減施策を原料別・詳細に、KPIを持って検討・推進する

CFPデータの見える化

サプライヤー
企業



社内システム

- ✓ 原料CFPデータの蓄積
- ✓ 開発者が照会することで環境配慮促進
- ✓ 顧客への製品CFP情報伝達の容易化

顧客企業



基盤整備により、
事業部/開発部門含む
全社的検討を推進

最後に

原料調達関連施策に加え、物流の効率化施策や委託製造のサステナブル化施策も同様に評価・優先順位付けを行っており、これらの施策を中心にScope3排出量の削減を推進して参ります。

B to B企業として、サプライチェーンの脱炭素に重要な役割を担っていると認識し、上流・下流ステークホルダーへのエンゲージメントを通じて脱炭素社会へ貢献できるよう努めて参ります。

ご清聴頂きありがとうございました。

Thank you very much for your kind attention.